

南相馬の授業スタイル

南相馬市学習指導改善検討委員会

南相馬市の小・中学校では、授業改善プランをもとに9つの課題の改善に向けて授業改善に取り組んでいます。

この冊子では、全ての先生方が共通理解を図り共同歩調で取り組めるよう、それぞれの課題ごとに取り組みたいポイントについてまとめました。

小学校1年生から中学校3年まで、授業スタイルに一貫性を持たせ、基礎学力の定着と活用力（思考力・判断力・表現力）の向上という学びの木を大きく育てていきましょう。

大きく育てよう！「学びの木」

豊かな枝葉づくり（活用力の向上）

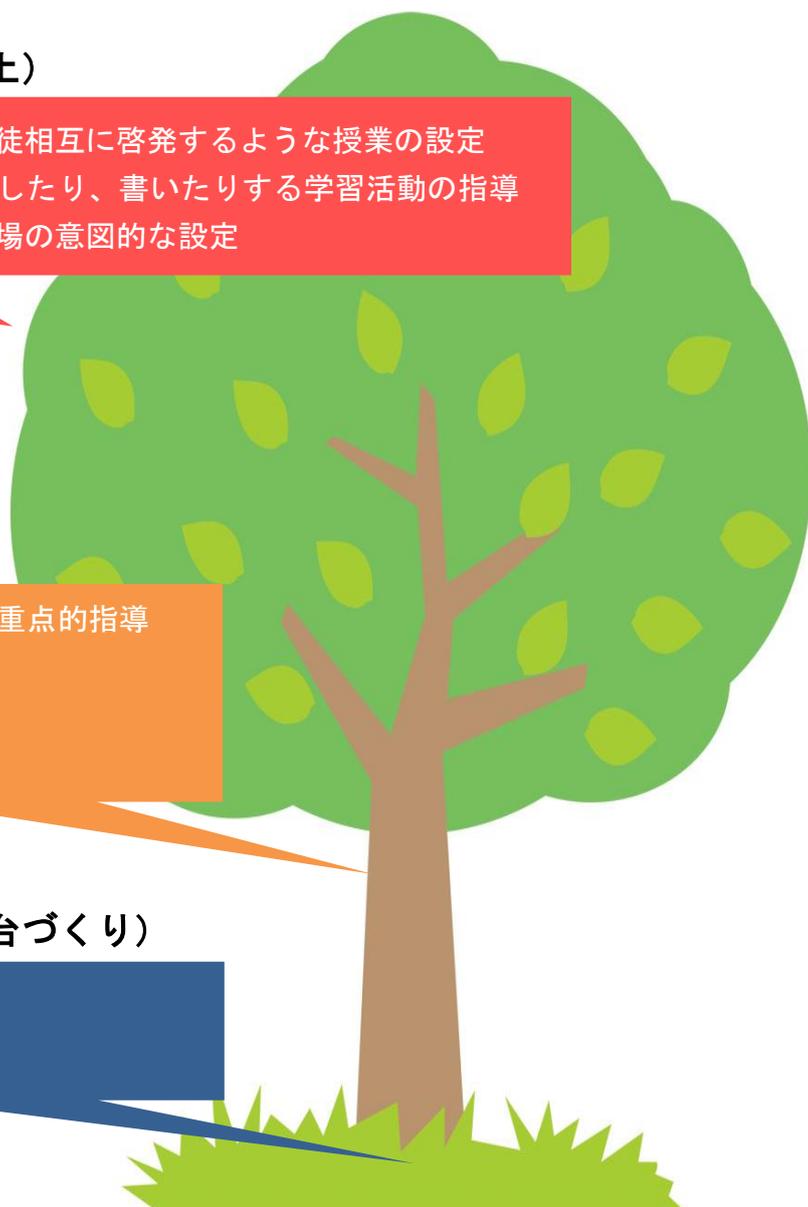
- 1 話し合い・学び合いを通じ、児童生徒相互に啓発するような授業の設定
- 2 目的に応じて資料を読み取り、話したり、書いたりする学習活動の指導
- 3 活発な発言を促すため、発表する場の意図的な設定

太い幹づくり（基礎学力の定着）

- 4 根拠を明確にして書く学習活動の重点的指導
- 5 ノート指導の工夫
- 6 板書が果たす役割の重視と工夫
- 7 適用とまとめの時間の確保

強い根づくり（学びを支える土台づくり）

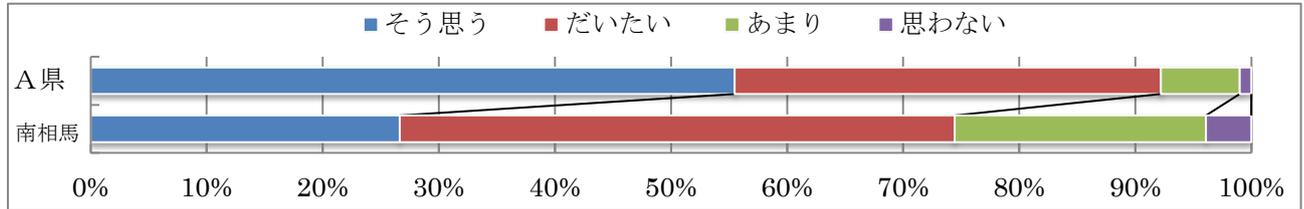
- 8 計画的な家庭学習の習慣化
- 9 読書活動の推進



1 話し合い・学び合いを通じ、児童生徒相互に啓発するような授業の設定

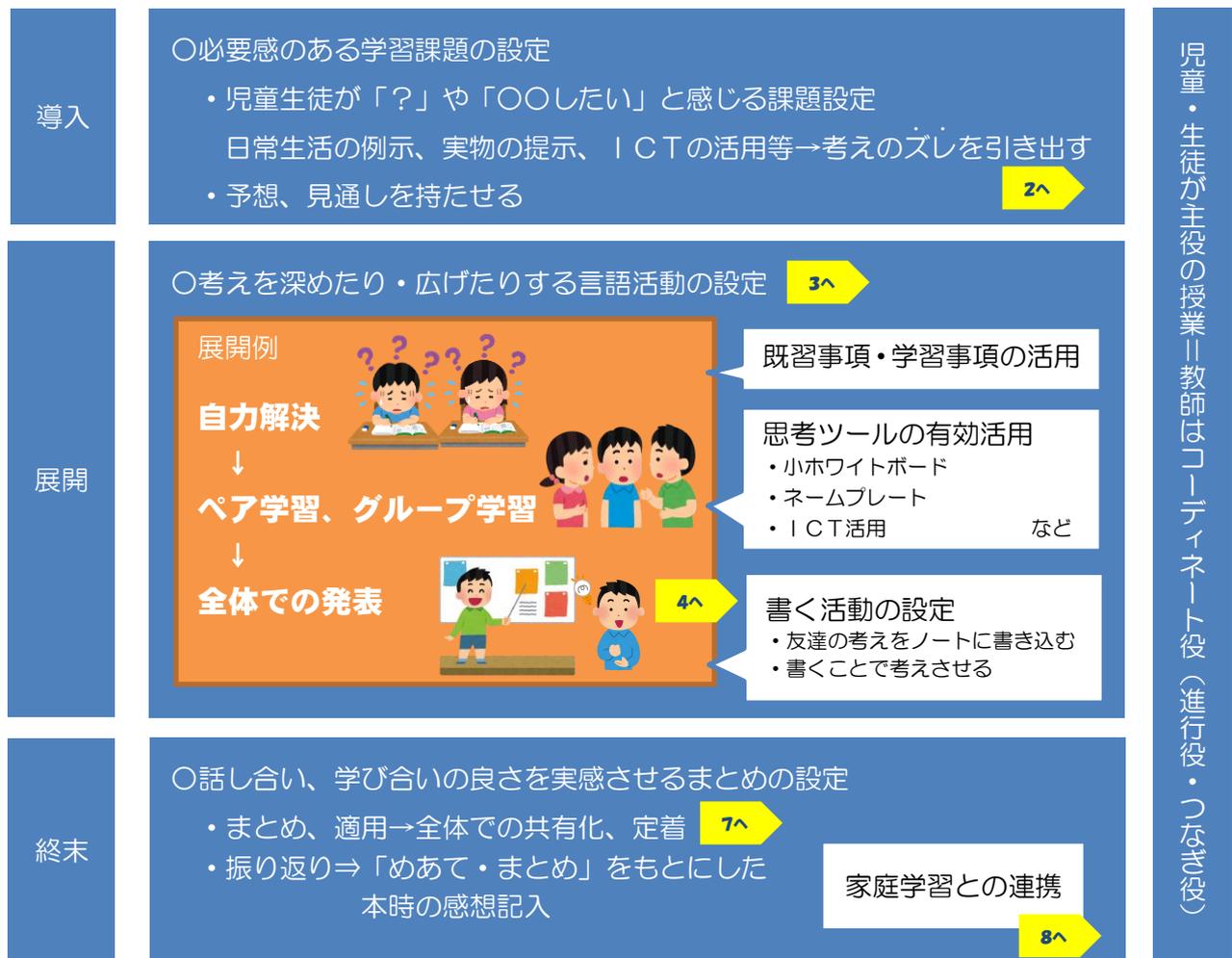
1 平成27年度 全国学力・学習状況調査質問紙調査から

「1,2年生のときに受けた授業では生徒の間に話し合う活動をよく行っていたと思いますか？（例 中学校）」

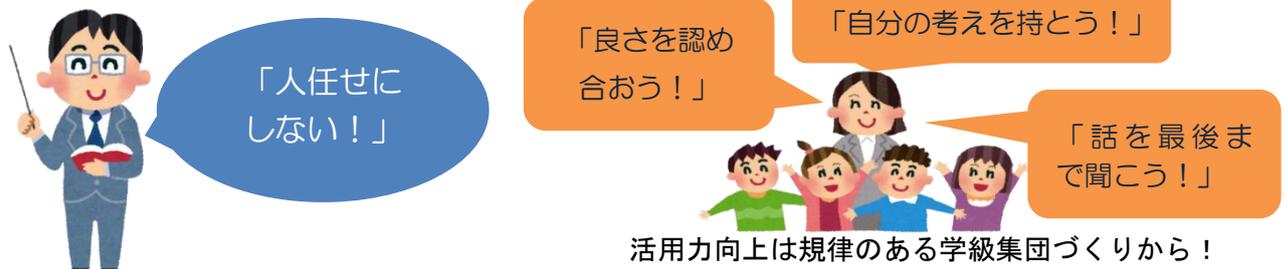


活用力（思考力・判断力・表現力）を高めるためには、話し合い活動や書く活動を効果的に取り入れた授業作りに一層積極的に取り組んでいく必要があります。

2 児童生徒が相互に啓発するような授業展開例



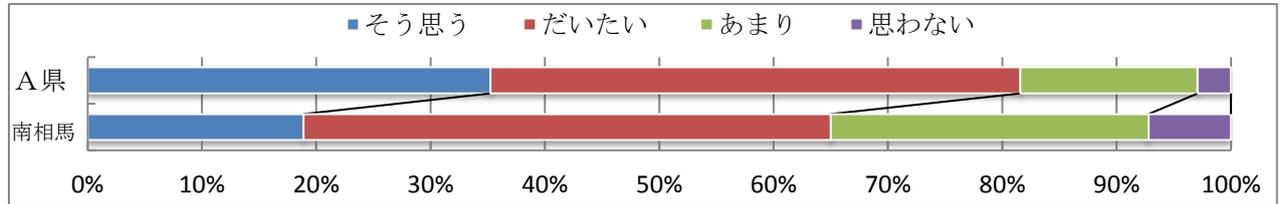
3 主体的な子どもを育てる「学びの合言葉！」



2 目的に応じて資料を読み取り、話したり、書いたりする学習活動の指導

1 平成27年度 全国学力・学習状況調査質問紙調査から

「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり・書いたりしていますか？(例 小学校)」



子どもが学習課題に対して主体的に追究するためには、話したり、書いたりする目的をしっかりと理解させることが大切です。

2 子どもが主体的に話したり・書いたりするためには

導入で、単元の見通し・本時の見通しを持たせる

・そのためには…**単元を見通した指導構想**を！

単元構想 (事前) → 本時のめあて → 学習課題・活動 → 本時のまとめ (評価) → 単元構想 (事後)

・そのためには…「めあて」から「まとめ」までの**整合性**を図りましょう。

「教えたい」を「学びたい」に変える

こんなことありませんか？

先生の問い: $\frac{4}{5}$ Lのジュースを、○人で等しく分けると、1人分は何Lになりますか？

生徒の疑問: 何したらいいかわからない / どんな計算すればいいの？

ポイント①
資料(記事・図表・イラスト、ICT等)提示の工夫

- ① 日常性のある資料の提示
- ② 学びの必要感を高める資料の提示
- ③ 直観的なわかりやすい資料の提示

4へ

例えば



$\frac{4}{5}$ Lのジュースをみんなで等しく分けるにはどうしたらいいかな？

2人だったらすぐできるよ



できないな。何算を使うのかな？

3人だったらどうなる？

ポイント②
「スレ(驚き、疑問、矛盾)」を引き出す発問の工夫

- ① 「どのように(どのような)?」…**読み取る力**
- ② 「なぜ? どうして??」…**思考力**
- ③ 「どうしたらよいか?」…**判断力**



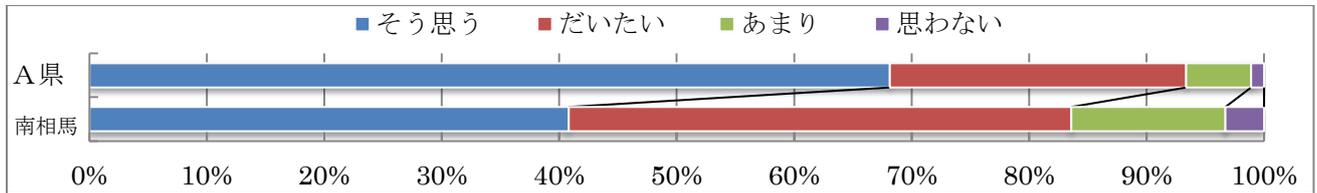
「話したい!」「書きたい!」気持ちを高めて、言語活動へ



3 活発な発言を促すため、発表する場の意図的な設定

1 平成27年度 全国学力・学習状況調査質問紙調査から

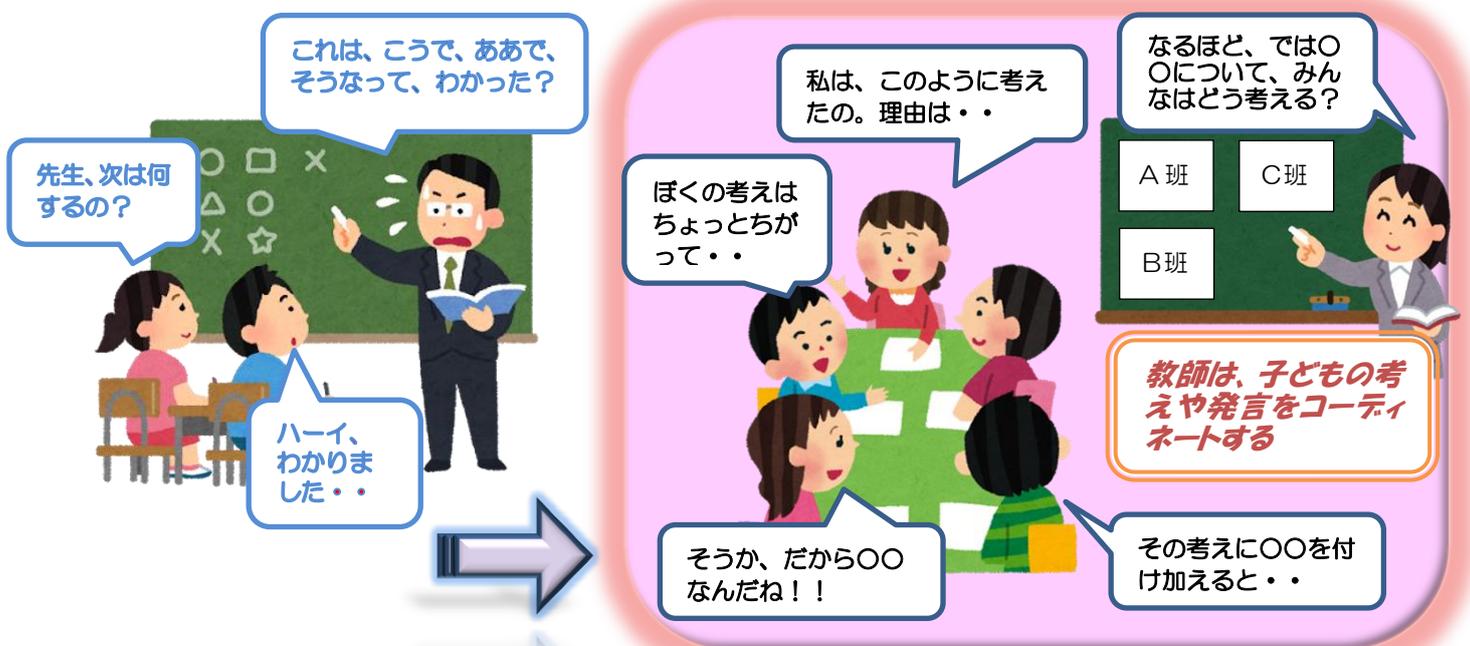
「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていますか？（例 小学校）」



「授業は子どもが主役」という視点に立って、学習展開を見直しましょう。できるだけ発問を焦点化し、教師が話す時間を少なくすることがポイントです。

2 学習展開・形態の工夫

～ 暗記・再生型から思考・発信型の授業へ ～



3 活発な発言を促すために

安心して発言できる環境づくり

- まちがいを切り捨てるのではなく、まちがいに学ぶ雰囲気をつくる。
- 答えや結果だけを重視するのではなく、考えた過程を話し合わせることを大切にする。
- 発達段階に応じた、基本的な話形を取り入れる。

一部の子どもたちの発言だけに頼らない授業設計

- 自力解決や追究の場面で自分なりの考えを持たせる。
- 子どもたち一人ひとりの見方や考え方を見取り、話し合いの場での意図的指名で発言を促す。
- 学習課題を明確にし、協働して取り組む学習活動を重視する。

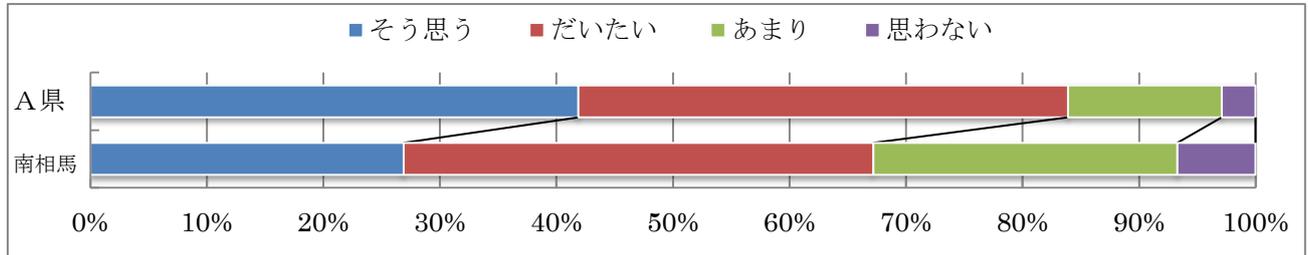
一人一人の思考を深める場の設定

- 問題が解決してからだけではなく、思考・判断の途中の段階でねらいにせまる話し合いをさせるなど、子どもたち相互に考えを深める場面を設定する。
- 発問を精選し、子どもが思考する時間を十分確保する。

4 根拠を明確にして書く学習活動の重点指導

1 平成27年度 全国学力・学習状況調査質問紙調査から

「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか？（例 小学校）」



児童生徒の活用力（思考力・判断力・表現力）を高めるためには、授業等で「書く機会」を多く確保し、「書く中身」を考えさせ、「書き方」を具体的に指導することが大切です。

2 「根拠づけて書く」力を育てるための「3要素」

書く機会の確保

- 各教科で…
- 学級活動、学校行事等で…
- 総合的な学習の時間で…
- 道徳で…

●書く力を支える活動

- ・テーマを決めて短文を書く
- ・要約する
- ・箇条書きにする
- ・メモをとる
- ・感想を書く
- ・コメントする

こんな授業していませんか？



書く中身の指導

- 「書きたい！」を引き出す指導
 - ・多様な思考を促す資料提示
 - ・根拠となる資料の取捨選択
 - ・話し合い活動の充実

●教師の「しかけ」

- ・学校図書館やICTを活用した調べ学習
- ・比較思考を促す資料提示
- ・図表や写真等視覚化の工夫

●子どもの「習慣」づくり

- ・疑問を持つ
- ・進んで調べる
- ・進んで話し合う

活動を通して「書きたいこと」を膨らませる。

書き方の指導

- 事実の伝え方
- 自分の考えや気持ちの伝え方
- わかりやすい伝え方

●基礎的な言語能力の定着

- ・文のつながり
- ・理由や根拠
- ・事実と意見の区別
- ・論理の展開
- ・引用や図表の活用

●多様なまとめ方

- ・論文形式、新聞形式、レポート形式、インタビュー、ポスター、広告風等
- ＜目的や相手に応じた伝え方＞

国語の授業と連携



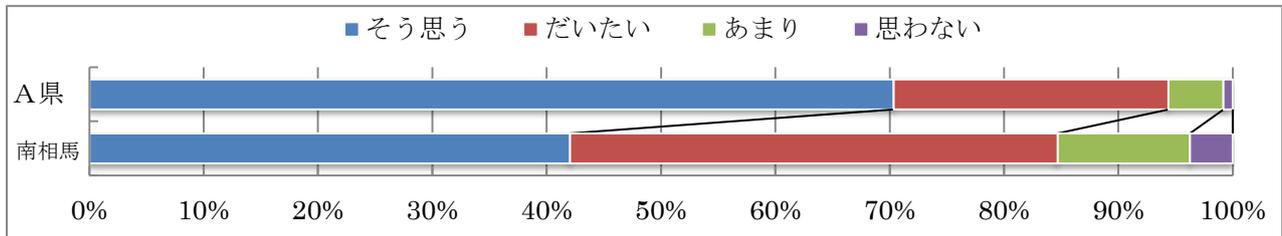
これなら書ける！



5 ノート指導の工夫

1 平成27年度 全国学力・学習状況調査質問紙調査から

「1, 2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか？（例 中学校）」



めあて・まとめをノートに書かせることで、1時間の授業で何を学んだのかを子どもたちに理解させることができます。授業で学んだことを家に持ち帰って振り返ることのできる板書・ノート指導を徹底しましょう。

2 指導のポイントとノート例

ノート指導のポイント

- ① 見開き2ページを基本に。
- ② 日付、単元名（教材名）「めあて」と「まとめ」の明記等、その時間の学びが一目でわかるノート
- ③ 交流や思考のあとが見えるノート（ノートを「思考の運動場」にする）
- ④ 先生の話をもemorしたり感じたことを書きこんだりするなど、工夫のあるノート
- ⑤ 家庭学習に配慮のあるノート（暗記や反復練習等、復習のポイントを明示する）

ノート例

〇月〇日 (〇) 単元名 (教材名)

めあて

予想・仮説・見通し 等

自力解決・実験

自分の考えは…
…だから〇だと思う

友達の考えは…
〇だと思う
・…だから
・…だったから
△だと思う
・…と…に書いてあるから
・…だから

まとめ

振り返り
(授業の感想・気づいたこと)

復習のポイント 公式等覚えること
・
・
・

6 板書が果たす役割の重視と工夫

○考えの足跡が残る板書（ノート）ですか？

○大事なこと、残したいことが見える板書（ノート）ですか？

**板書とノートを一貫して考え、
「学び」を振り返ることができる板書にしましょう。**

板書のポイントと板書例

板書のポイント

- ① 「めあて」「まとめ」のつながりのある板書
- ② 学習の流れがわかる板書
- ③ 互いのつづやきや考えを取り入れた交流のある板書
- ④ 図示等で、考えをまとめたり深めたりする板書
- ⑤ 家庭学習につながる復習のポイントを明示した板書

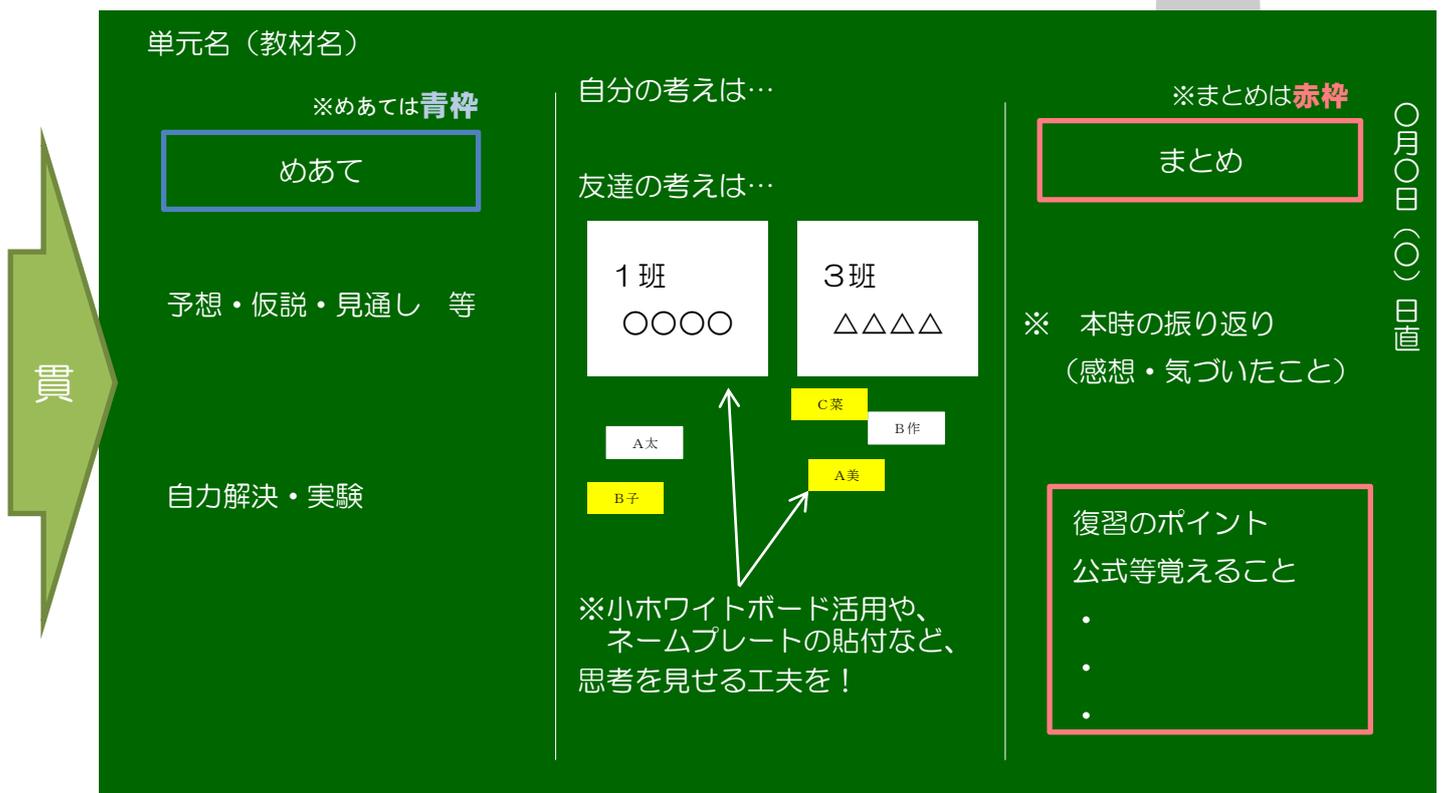
電子黒板と併用を！

電子黒板のメリット

- ①印象に残る提示ができる
- ②わかりやすく説明ができる
- ③明確に指示できる
- ④みんなで共有できる
- ⑤発表が効果的にできる



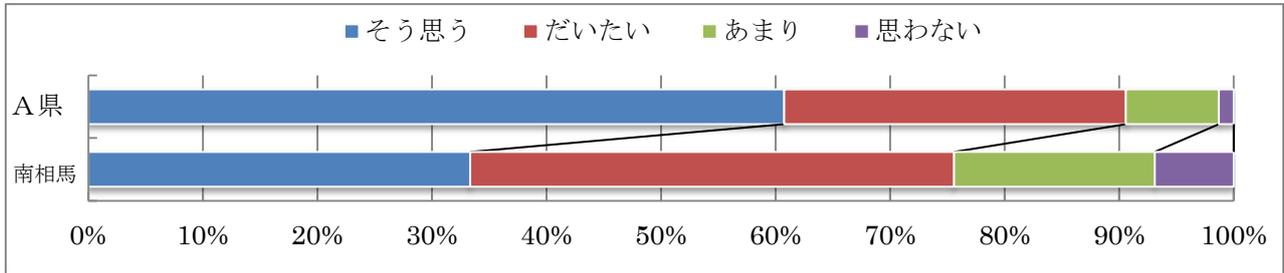
板書例



7 適用とまとめの時間の確保

1 平成27年度 全国学力・学習状況調査質問紙調査から

「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか？（例 小学校）」



学習内容の定着を図る上で、まとめの時間・適用の時間はとても大切です。授業のまとめをしっかりと板書して、本時の学習内容を振り返りましょう。

☆時間は10分～20分確保しよう！



まとめのさせ方

まとめの時間には…

- わかったこと
 - 発見したこと
 - できるようになったこと
- を共有し合う

方法は

- 1 ねらいを振り返る
- 2 書かせる・発表させる

適用のさせ方

適用の時間には…

一人一人が授業で獲得したことを活用する

教師にとっては
評価の時間

方法は

- 1 めあてに沿った練習をさせる
- 2 学習したことの説明や利用をさせる

目指すのは…

「学習してよかった!!」と思える授業
「学習への意欲につながる授業」

Q&A

Q： まとめを書けない子どもに、どう支援したらよいですか？

A： はじめから100点を求めず、どう書くかなど段階をふんだ指導が必要です。

Q： まとめ時間にたどりつけません。

A： 指導過程とねらいを精選し、授業の構成を見直す必要があります。

Q&A

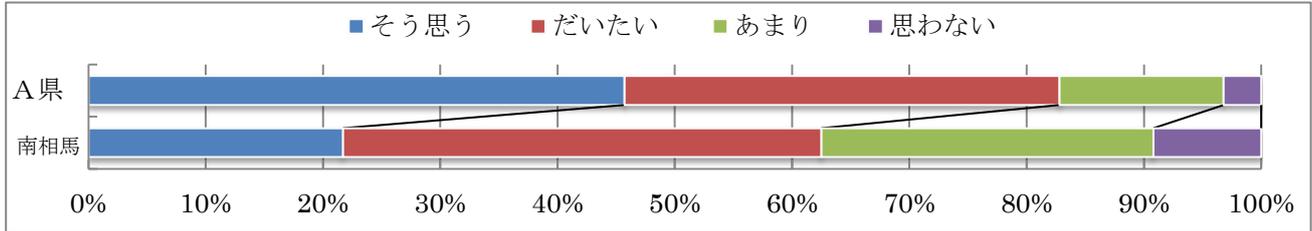
Q： 個々の評価と支援を短時間でを行うためにはどうすればよいですか？

A： めあてに沿った評価と支援が大切です。既習の振り返りや発展的な活動を計画的に準備して、一人の子どもに時間をかけないように工夫しましょう。

8 計画的な家庭学習の習慣化

1 平成27年度 全国学力・学習状況調査質問紙調査から

「家で、自分で計画を立てて勉強していますか？（例 小学校）」



学校と家庭が力を合わせて、主体的に家庭学習に取り組む児童生徒の育成に取り組みましょう。9年間を通した学びの積み重ねが大切です。

2 家庭学習の目安

小学校 低学年 30分 中学年 60分 高学年 90分
中学校 学年＋1時間

3 家庭学習の2本柱

1 自主学習ノート

- 1日ノート1ページ以上（毎日）
- 自分で内容を決めて自分で取り組む

ねらい

- ・家庭での学習習慣の定着
- ・反復練習による基礎の定着
- ・自主性や創意工夫の伸長

2 授業の宿題

- 次の授業の予習
- 今日の授業の復習
- テスト等に向けた計画的な勉強

ねらい

- ・授業を分かりやすく受けるため
- ・学習内容を定着させるため
- ・様々な問題に取り組ませるため

4 家庭学習指導を「見える化」する！

宿題を見える化

- どの教科で、何を、いつまでかを明示し、保護者と共有
 - ・学級掲示板の活用
 - ・生活ノートの活用

やり方を見える化

- 上手な取り組み方の共有
 - ・ノートコンテストの実施
 - ・学級活動で話し合い

励ましを見える化

- ノートにコメント記入
- ノート冊数等の掲示
- 小テストのこまめな実施

5 保護者と共に取り組む家庭学習（家庭にお願いすること）

学習環境の整備
（きまった時間きまった場所で・スマートフォン、ゲーム等のルール作り）

一緒に読書する
新聞やニュースについて話し合う



見まもり
（目の届くところで・終わったら確認）

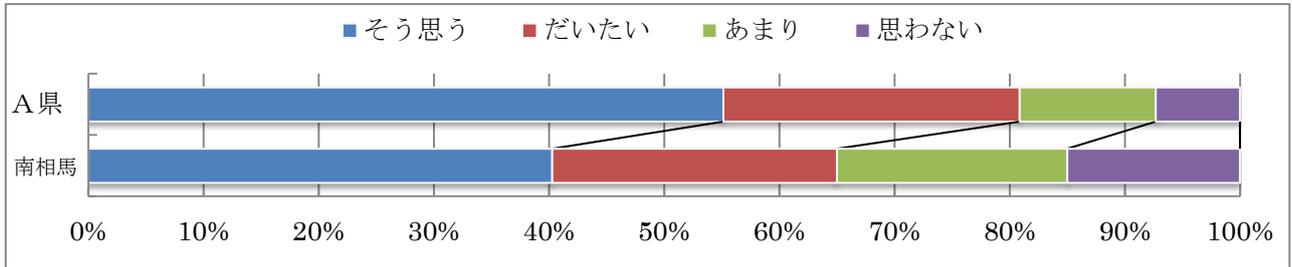
励まし（褒める・認める）

各校の「家庭学習の手引き」で具体的に保護者をサポートしていきましょう。

9 読書活動の推進

1 平成27年度 全国学力・学習状況調査質問紙調査から

「読書は好きですか？（例 小学校）」



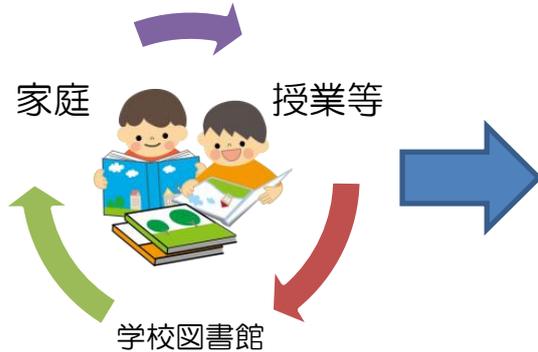
読む力は学力の基礎となる力です。学校の教育活動全体を通して児童生徒の読書活動をサポートしていきましょう。

2 読書が好きな子どもを育てる！

読書サイクルをフル回転させましょう！

- 子どもに**本を読むきっかけ**を与える。
- 本に触れる機会**を与える。
- 読む時間**を与える。

読書が好きな子どもを増やすには、授業等、学校図書館、家庭のそれぞれが連携してこの3点を意識し、読書サイクルを回すことが大切です。



学校では…

- ・朝の読書等で読む機会や時間を作る
- ・各授業等で関連する本を紹介する
- ・家庭での読書を推奨する
- ・授業などで学校図書館を活用し、本に触れる機会を増やす など



「学校図書館3つの機能」を授業等でフル活用しましょう！

読書センター

- 児童生徒の読書の習慣化を図り、豊かな人間性と情操、創造性をはぐくむ機能
- 児童生徒に読書に対する興味・関心を引き起こし、読書ができる力をはぐくみ、読書習慣を身に付けさせる読書指導の拠点

多彩な読書活動

読み聞かせ、ブックトーク、読書会など

児童生徒の
居場所

学習センター

- 児童生徒の主体的な学習活動を支える機能
- 全教科・領域における学習を深め広げる機能

学習を支える図書館として

図書・情報ファイル・新聞等、児童生徒が主体的に学習するための資料の整備・提供
ティームティーチングによる授業支援
児童生徒の学習成果物の収集・展示

教員サポート

教科指導のための研究文献 教員向け指導書・教材図書

情報センター

- 多くの学校図書館メディアの中から必要な資料を探し、そこから有用な情報を引き出し、評価し、比較検討し、自分なりの考えを入れて組み立て、発信する力を育む機能

多様な情報活用スキル

学校図書館の使い方、情報の探し方、資料の使い方 情報リテラシー、プレゼンテーションの仕方

学校図書館の3つの機能（全国学校図書館協議会ホームページより）

南相馬市では学校図書館支援員の派遣や、蔵書の充実、電算化による学校図書館環境の充実に取り組んでいます。

授業で使用する図書の相談、調べ学習等での図書館の活用など、各教科等でもっともっと学校図書館を活用し、子どもたちが本に触れる機会を多くしましょう。